

大雪山の素顔

旭岳・いろいろな思い出②

今回は「クマが出たぞー！」という話です。
 とある旅行会社のツアーで早朝に姿見園地を案内していた時のこと。その日は天気の良いこともあり、多くの散策者で賑わっていました。
 姿見駅から第一展望台に向かう坂を上りはじめた時でした。散策から戻ってきたご夫婦が「あっちに熊がいたんですけど」と言います。
 「えっ！熊ですか？」と思わず声を上げてしまいました。熊が出たという場所にお客様を連れて行くわけにもいかず、添乗員とその場で待機してもらい、様子を見に行くことに。
 坂を駆け上がり第一展望台から周囲を見渡してみました。見たところ熊はいない…。あと、想像と違う。熊が出たということであれば、ちょっとしたパニックというか、緊張した雰囲気は想像していたのですが、いたって穏やか。
 第三展望台では、熊が出たという方向に背を向け、ギンザンマシコ（鳥）の撮影に夢中なカメラマンが多数。散策する人達もいたって普通。本当に熊が出たのかなと思うほどです。第三展望台に行き、カメラマンの方に「熊が出たって聞いたんですけど」とたずねると、「うん、いたよ。ほれ」と言って、熊の写真を見せてくれました。熊は確かにいた。
 ここは大雪山、熊のすみかです。熊がいるのは普通と言えば普通。問題はこの熊はどこに行ったのか、



Nature Column (ネイチャーコラム)
 自然ガイドなどで活躍する人たちをリレーしています。

ということ。カメラマンの方に聞いても、第二展望台付近のハイマツの茂みに入ったのは見たが、その後はわからないとのこと。興味は「ギンザンマシコ>熊」のよう…。
 ツアーは中止し、関係機関に連絡して、その日の姿見園地は第一展望台より先が通行止めとなりました。



逃げていくヒグマ
 (撮影:東川町 越智さん)

熊はまだいるのか、いないのか…。
 最初に目撃されてから6時間ほど経った頃でしょうか、茂みの中から突然熊が飛び出してきました。通行止めになって人の気配が少なくなったからでしょう。そして山の奥へと走り去って行きました。
 熊が近くにいると獣臭がすごいと言われますが、この時は皆無。熊が潜んでいた茂みの近くに何度も行っていたのに気配も一切なかった。「あんな大きな体なのに、身を潜める技術がかなり凄い！」と野生動物の持つ力に驚かされた出来事でした。
 これからの登山シーズン、みなさんも山に入る際は熊鈴や熊スプレーを持参するなどの熊対策をお忘れなく。(次号へ続く)

NPO法人大雪山自然学校 小沼秀樹



日 月 火 水(昼時) 水(夜) 木 金 土

「何曜日生まれですか？」と聞かれたことはありますか？そして、自分の生まれた曜日をご存知ですか？
 日本では「血液型は何ですか？」とよく聞かれますが、タイでは自分の血液型が分からない、もしくは覚えていない人が結構います。
 逆に、タイ人はみんな、自分の生まれた曜日を知っています。どうしてでしょう？
 それは、タイでは曜日ごとに吉とされる色や方角、まつわる生き物(守護動物)や仏像が決まっているからです。タイでは小さい頃から、学校などで色と曜日の言葉を覚える時に、「月曜日は黄色、火曜日はピンク、水曜日は緑、木曜日はオレンジ、金曜日は水色、土曜日は紫、日曜日は赤」と教えられます。私は、この決まりは世界共通だと思っていましたが、他国の友達と話をしたら、中国もインドネシアも日本もそういうのは無いよ、と言われ、「もしかしてタイだけ？」と初めて気付きました。
 タイでは、生まれた曜日は日常生活にも溶け込んでいます。例えば、家や車は自分の生まれた曜日の色にしたり(タイでは自分の誕生日の色が好き人が多いです)、出勤の時に服の色をその日の曜日の色に合わせたり…。また、お寺や寺院にはそれぞれの曜日になんだ仏像が並んでいるのが一般的です。自分の生まれた曜日の仏像を拝んだり、その仏像の前に置いてある箱にお金を入れてタンブン(徳を積む)をしたりすることが幸運をもたらす、という風習が深く浸透しています。
 日本の「血液型占い」と同じように、その人の性格や運勢が分かるような「誕生日占い」もあります。私ははじめて日本で「血液型占い」を知った時、面白いなと思いました。皆さんも、日本にはないこの独特な「誕生日占い」を試してみたいかがでしょうか。日本語で書かれた2つのホームページをご紹介します。何か新しい発見が見つかるかもしれませんよ。
<https://uraru.jp/topic/1044989>
<https://amazing-bangkok.com/learn/day-color/>



生まれた曜日の仏像にタンブン



あなたは何曜日生まれですか？

東川町国際交流員 (CIR)
 スミッタ・エクワワーニット